

1 総論

(1) 青森県レッドリスト改訂増補版の作成の経緯と目的

県は、平成 12 年 3 月に本県に生息・生育する野生生物のうち、特に希少な種について、その生息状況や形態的特徴、選定の理由等を取りまとめた「青森県の希少な野生生物 - 青森県レッドデータブック - 」(以下、青森県 R D B という。)を作成・発刊しました。

青森県 R D B は、県内に生息・生育する希少野生生物を 624 種選定し、併せてその種についての解説を掲載しており、これまで各種行政機関や教育・研究機関、県民への普及啓発等に活用されているところです。

しかし、R D B 選定種やその絶滅の危険度を示したカテゴリーについては、発刊当時において把握・整理した情報に基づいて取りまとめられており、現況を必ずしも反映していない事が懸念されてきています。また、情報不足により要調査野生生物(Dランク)として取り扱った種も数多くあることや、時間的な制約等により対象としなかった分野もあります。

自然環境や生物多様性は一度失われると回復するのは非常に困難を伴います。青森県 R D B に選定されている希少野生生物は、県内にこれら良好な自然環境が保全されている事を示す指標ともされるべき種であり、様々な保護・保全対策が必要とされている種です。

そこで県では、これら希少野生生物の生息状況を把握するため、青森県 R D B 発刊直後の平成 13 年度から、県内の希少野生生物についてモニタリング調査を継続し、その選定種について再検討を行い、今回「青森県レッドリスト(2006 年 改訂増補版)」として取りまとめました。

この取りまとめにあたっては、県内の野生生物の専門家に協力をいただき、必要に応じて現地調査を実施するとともに、既存資料の収集等を行い、新たに得られた知見により選定種の追加や削除、カテゴリーの見直しを行いました。また、菌類や蘚苔類等の新規対象分野を追加しました。

本書の作成により、広く県民の皆様や関係者の方々が、県内に生育・生息する希少野生生物についての理解が深まり、本県の自然環境の保護・保全へつながるものと考えています。

(2) 検討体制

県内の野生生物の専門家により「青森県生物多様性保全対策検討会」を組織し、調査及び選定・執筆作業を行いました。

さらに、検討会委員以外の研究者及び専門家の方々にも情報収集や選定作業等について、ご協力をいただきました。

青森県生物多様性保全対策検討会

【会長】

細井幸兵衛

【植物分科会】

木村 啓 根市 益三 細井幸兵衛（維管束植物）

柿崎 敬一（蘚苔類、地衣類）

原田 幸雄（菌 類）

【脊椎動物分科会】

小原 良孝 向山 満（哺乳類）

小山 信行 阿部 誠一（鳥 類）

奈良 典明（爬虫類、両生類）

佐原 雄二（汽水・淡水魚類）

【無脊椎動物分科会】

山田 雅輝 奈良岡弘治 室谷 洋司 山内 智（昆虫類）

大高 明史 大八木 昭（昆虫類以外の無脊椎動物）

○青森県レッドリスト選定協力者

平井 正和（淡水藻類）

工藤 伸一（菌 類）

○対象分野

維管束植物

蘚苔類、淡水藻類、地衣類、菌類（維管束植物以外の植物）

哺乳類

鳥類

爬虫類、両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

昆虫類以外の無脊椎動物

(3) 青森県レッドリスト(2006年改訂増補版) カテゴリー定義

カテゴリーについては、1) 環境省版レッドリストと比較が出来ること、2) よりわかりやすい表現であること等を踏まえ、「青森県の希少な野生生物 - 青森県レッドデータブック - 」(2000年3月発刊)と同じものを採用しました。

カテゴリー定義

区 分	基本概念	要 件	対応する 環境省カテゴリー
絶滅野生生物 EXランク	県内では、すでに絶滅したと考えられる野生生物	過去の記録・標本等において生息・生育が確認されているが、現在は県内で確認できない種	絶滅 EX 野生絶滅 EW
最重要希少野生生物 Aランク	県内では、絶滅の危機に瀕している野生生物	生息・生育数がきわめて少なく、または生息・生育環境も制限される種で、近い将来県内での絶滅が危惧される種	絶滅危惧 A類 CR 絶滅危惧 B類 EN
重要希少野生生物 Bランク	県内では、絶滅の危機が増大している野生生物	生息・生育数がかなり少なく、または、生息・生育環境もかなり限られた種で、将来県内での絶滅が危惧される種	絶滅危惧 類 VU
希少野生生物 Cランク	県内では、生息・生育を存続する基盤が脆弱な野生生物	生息・生育数が少なく、生息・生育環境も限られた種で、現地点では直ちに絶滅危惧とする程ではないが、環境の変化によっては個体数の更なる減少が危惧され、県内での絶滅が心配される種	準絶滅危惧 NT
要調査野生生物 Dランク	県内では、生息・生育情報が不足している野生生物	限定された生息・生育環境や低生息密度などから注目される種であるが、県内での確認例がきわめて少なく、生息・生育実態等が不明なため評価が保留されている種	情報不足 DD
地域限定希少 野生生物 LPランク	県内では、地域内に孤立している個体群で、地域レベルでの絶滅のおそれが高い野生生物	生息・生育状況・学術的価値・生物地理学的観点から特に保護に留意すべき地域個体群	絶滅のおそれのある地域個体群 LP

(4) 選定結果

青森県の希少な野生生物として、今回のリスト見直しにより選定された種の内訳及び一覧は次のとおりです。

選定種総括表

カテゴリー 分類群	E X	A	B	C	D	L P	合 計
植物合計	7	108	129	88	100	1	433
維管束植物計	7	104	108	48	32	0	299
シダ植物	0	2	5	4	1	0	12
種子植物	7	102	103	44	31	0	287
維管束植物以外計	0	4	21	40	68	1	134
蘚苔類	0	0	7	12	5	0	24
淡水藻類	0	1	0	0	9	1	11
地衣類	0	1	3	1	24	0	29
菌類	0	2	11	27	30	0	70
動物合計	9	53	76	149	153	15	455
脊椎動物計	6	27	43	52	9	9	146
哺乳類	5	4	8	5	1	5	28
鳥類	0	17	30	45	1	0	93
爬虫類	0	1	1	0	2	0	4
両生類	0	0	0	1	0	0	1
汽水・淡水魚類	1	5	4	1	5	4	20
無脊椎動物計	3	26	33	97	144	6	309
昆虫類	3	23	28	90	126	1	271
昆虫類以外の無脊椎動物	0	3	5	7	18	5	38

選定種結果一覧

カテゴリー 分類群	E X	A	B	C	D	L P	合 計
青森県レッドリスト 改訂増補版(2006.3)	16	161	205	237	253	16	888
青森県レッドデータ ブック(2000.3)	17	116	144	156	178	13	624

(5) 凡例

1) 構成

各分野ごとに、選定結果の概要とレッドリストで構成されています。

また、平成 12 年（2000 年）に発刊された青森県掲載種と比較して、新規選定種又はカテゴリーの変更があった種については、網掛けで標示し、後半部に簡潔に変更理由を掲載しています。（蘚苔類、淡水藻類、地衣類、菌類は新規対象分野のためその選定理由を掲載。）

2) レッドリストの項目

レッドリストは分野ごとに、和名、学名、目・科名、カテゴリー、環境省レッドデータブックのカテゴリーで構成されています。

また、変更点一覧については、和名、変更内容（新規追加、削除、カテゴリー変更）、カテゴリー区分、県レッドデータブック（2000）のカテゴリー区分、変更理由で校正されています。なお、今回のレッドリストの改訂増補にあたり、参考とした文献については可能な限り文献名を列記し、対象種の欄に文献番号を記載しました。

（参考）環境省レッドデータブックのカテゴリーについては、公表されている最も新しいものに該当するものをカテゴリーを記入しました。

分 野	環境省レッドデータブック名	公 表 年
維管束植物	植物（維管束植物）	平成 12 年（2000）
蘚苔類、淡水藻類、地衣類、菌類	植物（維管束植物以外）	平成 12 年（2000）
哺乳類	哺乳類	平成 14 年（2002）
鳥類	鳥類	平成 14 年（2002）
爬虫類・両生類	爬虫類・両生類	平成 12 年（2000）
汽水・淡水魚類	汽水・淡水魚類	平成 15 年（2003）
昆虫類	昆虫類【環境省レッドリスト】	平成 12 年（2000）
昆虫類以外の無脊椎動物	甲殻類	平成 18 年（2006）
	陸・淡水産貝類	平成 17 年（2005）
	クモ形類・多足類等	平成 18 年（2006）

3) 種名と配列

種の配列及び和名・学名については日本産野生生物目録 1993（環境庁版）及び日本鳥類目録 2001（日本鳥学会 改訂第 6 版）を参考とし、必要に応じてはもっとも新しく適切と思われるものを使用しました。

なお、学名のうち、変種名が種小名と同じ場合は省略しました。

（例：ケナガシャジクモ 学名 *Chara benthamii* Zaneveld）